

令和8年2月19日

世田谷区立多聞小学校
学校運営委員会 委員長 河野 寛様
校長 平間 学 様

世田谷区立多聞小学校 学校関係者評価委員会
委員長 中村 徳子

令和7年度 学校関係者評価委員会 報告書

世田谷区立多聞小学校学校関係者評価委員会は、よりよい教育活動が展開されるよう、外部アンケートならびに学校自己評価点検をもとに、本年度の教育活動全般を評価し、次年度の改善に向けた報告書を作成しました。

学校及び学校運営委員会においては、これら報告を客観的に分析し、今後の対策を検討してください。

1. 評価資料概要

1.1. 外部アンケート

- 対象 保護者・児童(5・6年)・地域
- 調査実施日 令和7年10月17日～10月30日
- 配布数 児童254件 保護者757件 地域40件
- 回答数 児童238件 保護者451件 地域16件
- 回収率 児童93% 保護者60% 地域40%

1.2. 学校自己評価点検

- 対象 本校全教員38名

2. 外部アンケートの概況

外部アンケートの全項目について、回答選択肢、A「とてもそう思う」B「思う」C「あまり思わない」D「思わない」E「分からない」のそれぞれの割合を求め、回答選択肢 A「とても思う」B「思う」のパーセンテージの合計を肯定的評価とし、C「あまり思わない」D「思わない」の合計を否定的評価とした。

委員会では、本調査結果に加え、授業参観や行事への参加、ヒアリング、ホームページ閲覧などを行い、その結果を世田谷区教育委員会作成の「学校評価システム」の評価項目に基づき、令和6年度多聞小学校の学校経営計画より、以下に示した「目指す学校像」「重点目標」に沿って報告する。

2.1. 令和7年度 学校経営計画

令和7年度 多聞小学校 学校経営計画より

I 目指す学校像 『誰にでも居場所がある学校』(子どもも大人も安心でき笑顔になれる学校)
一人一人が個性を発揮して活動に取り組む → 協働による実践 → 達成感・充実感の蓄積
→ 自己肯定感・自己有用感の醸成 → 主体的行動・発信の維持充実

II 重点目標

- ① 考える子ども…すすんで学び、他者との交流を通して深めた考えを表現する子ども
- ② 助け合う子ども…他者の思いに共感し、思いやり、助け合う人間性豊かな子ども
- ③ たくましい子ども…心身ともに健康で、粘り強く課題に立ち向かう子ども

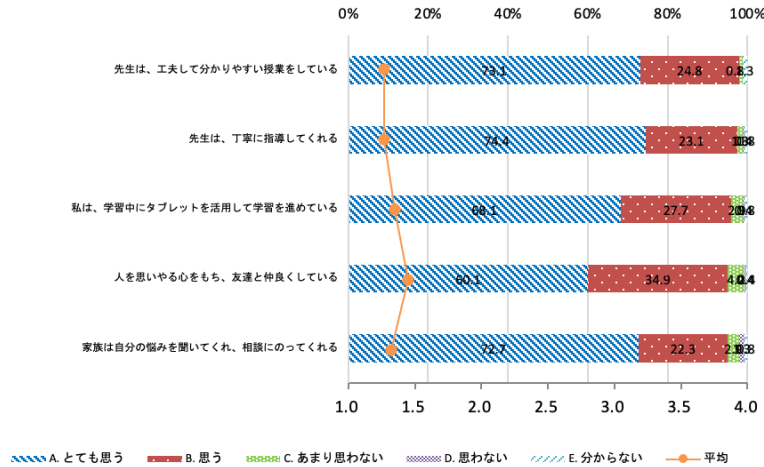
3.1. 児童アンケート回答結果について

肯定的回答が多い項目として、「先生は工夫して分かりやすい授業をしている」「先生は丁寧に指導してくれる」が挙がっており、教員の授業に臨む姿勢は大変高く評価されている。一方で、「学ぶことが楽しい」という項目には否定的な回答も見られ、学習の動機づけに課題があることが伺える。また「図書館や家での読書(活字)に親しんでいる」「学習中の姿勢や態度を整え、宿題を自分で進めたり持ち物管理を自分で行ったりしてい

る」「学習課題について自分の考えを持ち、友達と意見を交流しながら学習を進めている」といった項目でも否定的な回答が目立っており、児童自身も自発的な学習への取り組みが十分ではないと捉えてるようである。

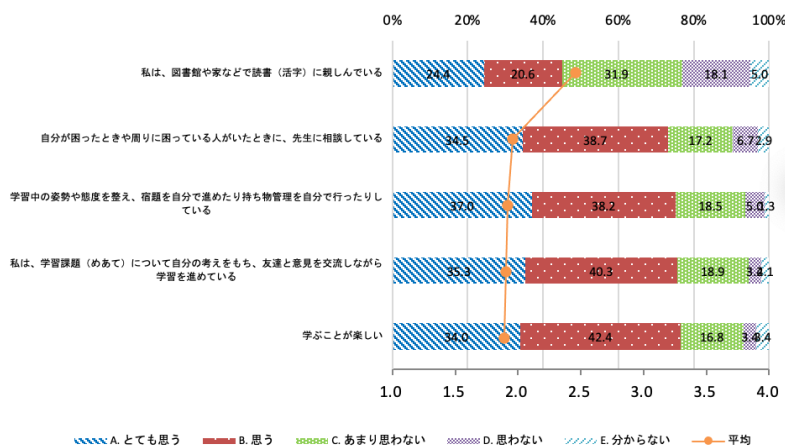
一方で、「家族は自分の悩みを聞いてくれ、相談に乗ってくれる」という項目は肯定的回答が95%に達しており、家族の中に自分の悩みを打ち明けられる相手がいることは非常に重要であり、良好な家庭環境が伺える。

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の多かった項目



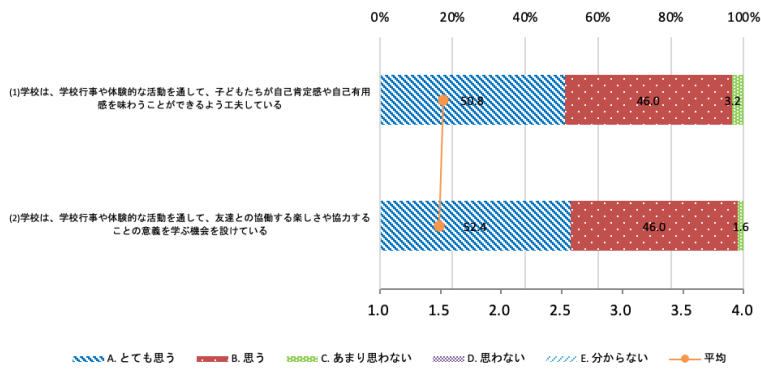
また「自分が困ったときや周りに困っている人がいたときに、先生に相談している」は肯定的回答73.2%であった。児童が相談すべき悩みがない、もしくは他に相談できる人がいる安心感を持って生活できる児童が増えるよう、今後も努力を続けていただきたい。質問の仕方を「先生（周りの大人を含む）」とすることで、相談対象をスクールカウンセラー、主事などを含む学校関係者全体に広げられるため、数値はさらに上がるかもしれない。

否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）の多かった項目



「私は、図書館や家などで読書（活字）に親しんでいる」項目の肯定的回答が45%と非常に低い数値を示した。これはICT活用時間の増加やYouTubeなど動画コンテンツの普及による「活字離れ」の表れと考えられる。学校での読書時間は確保されているが、家庭での読書の習慣化や、読書を楽しむ段階には至っていない可能性がある。想像力を養うためにも、読み聞かせなどを通じて読書の楽しさを伝える活動が望まれる。

3 学校行事や体験的な活動について

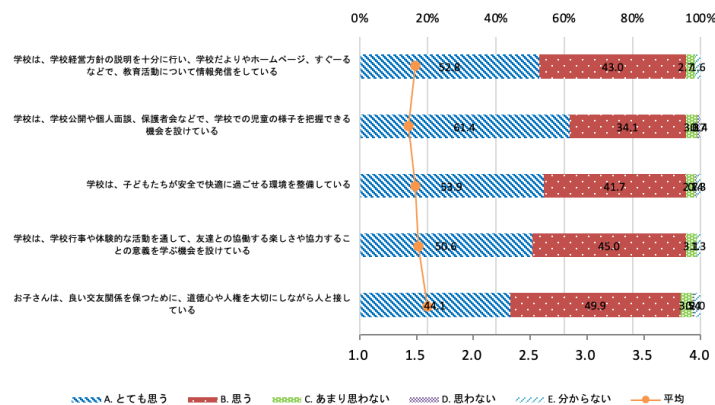


全体的として学校行事や体験的な活動に関する項目では高い肯定的回答が得られており、児童が意欲的に取り組めるよう教員の方々の工夫や努力が感じられる点は大変評価できる。

3.2. 保護者アンケート回答結果について

肯定的な回答では、「学校経営方針の説明を十分に行い、学校だよりやホームページ、すくーるなどで、教育活動について情報発信をしている」「学校は子どもが安全で快適に過ごせる環境を整備している」が挙がっており、学校への信頼の高さが伺える。

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の多かった項目

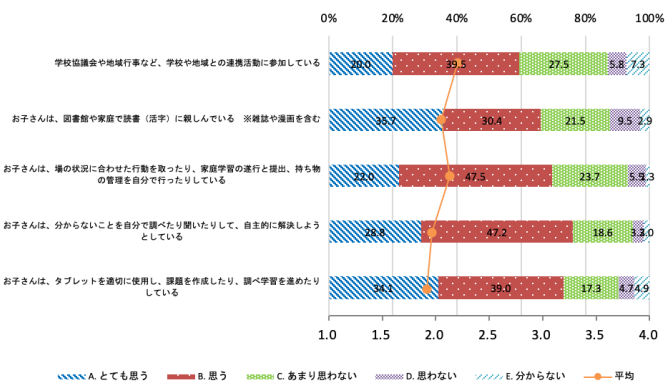


「学校は学校公開や個人面談、保護者会などで、学校での児童の様子を把握できる機会を設けている」項目では95.5%が肯定的であり、学校組織の透明性の高さが伺える素晴らしい数値である。特に、土曜授業日のラジオ放送「たもラジ」は、児童の日常やイベント情報などを共有する「風通しの良い学校づくり」に寄与している。

また、学校行事や体験的な活動についての項目「学校は学校行事や体験的な活動を通して、友達と協力する楽しさや協力することの意義を学ぶ機会を設けている」項目では95.6%の非常に高い肯定的評価を得た。これは教員への信頼度の表れであり、教員の方々の誠意と努力の賜物であると考えられる。今年度、新たに行われた「学習発表会」も、児童の能動的な取り組みと教員の方々の工夫が光る素晴らしい内容であった。

一方で、児童と同様に「図書館や家庭で読書（活字）に親しんでいる」「場の状況に合わせた行動を取ったり、家庭学習の進行と提出、持ち物の管理を自分で行ったりしている」などは肯定的回答が比較的低く、保護者も自発的な学習姿勢に課題を感じているようだ。ICTの活用を進めてほしいと考える反面、家庭でのタブレット利用への懸念も推測されるため、学校と家庭が連携した読書習慣の定着が望まれる。

否定的回答（「あまり思わない」「思わない」）の多かった項目

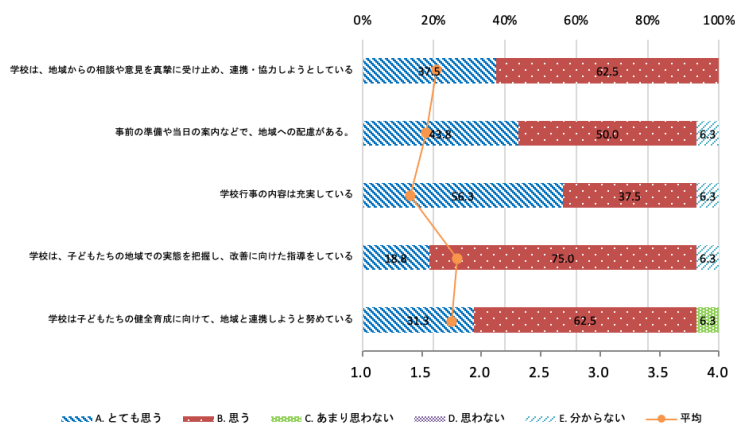


3.3. 地域アンケート回答結果について

全体として肯定的な回答が多く、地域からの信頼度は高いと思われる。ただし、「学校協議会や合同学校協議会で、教職員や地域をつなぐ役割を話している」「学校は地域の人や施設を教育活動に活かしている」については否定的な意見もあり、より積極的な地域連携が期待される。

11月に6年ぶりに多聞小学校体育館で開催された地域主催の「たもんこどもまつり」は、ボランティアを含め約1000人が参加する盛況ぶりであった。児童と地域がつながるだけでなく、入学予定者へのPRや防災面でも意義ある機会であった。「皆で作る多聞」という理念のもと、来年度以降の継続を望む声が多く寄せられている。

肯定的回答（「とても思う」「思う」）の多かった項目



4. 今後に向けて

本年度の結果を踏まえ、次年度はおもに3点に重点を置いて改善を図っていただきたい。まず1点目は自立した学習と読書習慣の育成である。家庭と連携し、自ら学習を管理する力の育成や、活字に親しむ機会の充実を図る。2点目は安心できる相談体制の充実である。担任だけでなく、学校全体で児童の悩みを受け止める相談しやすい環境づくりを推進していただきたい。3点目は地域連携のさらなる強化である。「たもんこどもまつり」などの交流を軸に、地域の人材を教育活動にさらに活用することで、地域とともにある学校づくりをすすめて、児童にとっての第三の居場所をつくっていただきたい。

最後になりますが、校長先生をはじめ諸先生方の熱心なご指導により、子どもたちが充実した学校生活を送れましたことに深く感謝申し上げます。